#### - タは2023年8月31日現在



# たけうまファンド

定 還 設 : 2011年11月 償 : 死ぬまで 決 算 : 原則、毎月末 日  $\boldsymbol{\mathsf{H}}$  $\Box$ 

収 益 分 配 : ありません 基 準 価 額 : 算出対象外 純資産総額 : 非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。

※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

純資産総額



<純資産総額騰落の要因分析>

28.2%

5.7% -85.9%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず(できない)、前月末と当月末の時価総額の差

※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

日本株式

海外株式

を算出してます。

現金(円・\$)

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。

※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

#### <資産構成比率>

日本株式	97.8%
海外株式	24.2%
現金(円・\$)	2.2%

※比率は対純資産総額比です。

#### <分配金実績>

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

### <純資産総額の騰落率>

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-5.6%	4.3%	-0.9%	-0.1%	10.4%	1592.99%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX(外貨証拠金取引)は含まず。

株式投資は、値動きのある資産(外国株式は為替変動リスクもあります。)に対し投資をするため、資産残高 は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載され ている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

# たけうまファンド 日本株式/海外株式

#### <資産構成比率>

# <国・地域別組入比率>

### <業種別組入比率>

資産	比率	
株式	97.8%	
現金	2.2%	

国・地域名	比率	
日本	75.3%	
アメリカ	24.8%	

業種	比率	
資本財・サービス	33.70%	
一般消費財・サービス	21.33%	
金融	14.69%	
情報技術	10.31%	
生活必需品	6.23%	

# <組入上位10銘柄>

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率	
1	オカダアイヨン	日本円	日本	資本財・サービス	16.13%	
1	6294	日本门				
2	ウルトラファブリックスHD	 - 日本円	日本円 日本	一般消費財・サービス	14.08%	
	4235	日本门	山平			
3	ディップ	日本円	日本	一般消費財・サービス	10.77%	
	2379	日本门				
4	ServiceNow, Inc	米ドル	アメリカ	情報技術	10.55%	
	NOW	7(170				
5	ヒューリック	   日本円	日本	金融	8.05%	
	3003	HTTI				
6	シンメンテHD	 - 日本円	日本	資本財・サービス	7.57%	
	6086	H TY 1				
7	Tapestry, Inc.	米ドル	ドル アメリカ	一般消費財・サービス	7.26%	
	TPR	7/(1/2				
8	MSCI Inc.	・ 米ドル	* * ドル アメリカ	アメリカ	金融	6.98%
	MSCI	2/(1/2	,,,,,,,	<u> </u>	0.50%	
9	ニップン	日本円	日本田	日本	生活必需品	6.37%
	2001	H (T)	日午	工/日必, 皿 田	0.5170	

# <規模別構成比率>

時価総額	比率
1兆円以上	24.79%
5000億~1兆円未満	9.35%
1000億~5000億円未満	21.80%
1,000億円未満	44.06%

株式投資は、値動きのある資産(外国株式は為替変動リスクもあります。)に対し投資をするため、資産残高 は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

# 運 用 実 績

今月の当ファンドはマーケットが堅調に推移する中、保有銘柄に悪材料が相次ぎ一桁半ばのマイナスという結果に終わりました。

まずはタペストリー。マイケルコースなどを擁するカプリの買収を発表。これによりこれまで毎年増額してきた自社株買い停止し、新規に80億ドルの借り入れを実施することになり株価が大幅に下落。製品群と価格帯、販売地域が重複しないこと、利益改善に苦しむカプリにタペストリーで成功しつつあるD2Cを導入することによるシナジー効果で効率化と一体での大幅成長を狙う。配当は増額されているので配当貰いながら統合効果顕在化待ちということに。

次にウルトラファブリックスの第2四半期決算。1Qで進捗がよく上方修正期待がありながら実際は2Q単体ではリードタイム正常化による顧客在庫調整フェイズに突入し出荷数量が想定通りとはならず期待外れという結果に。直近公開された決算説明会書き起こしでは会社としては想定通りのため1Qで上方修正を出さなかったこと、リードタイム正常化の影響は2Qがボトムと想定で下半期にかけての改善を見込む、材料費よりも物流コスト要因での値上げ多いが転嫁もきちんと進めていく、航空機向けはドイツでのエアクラフトインテリアエキスポにて新規顧客獲得に成功し4Q以降に業績に反映されてくる、その他ではクルーザー向け好調で同様の理由でアウトドア製品も伸びている、在庫を積み増してカタログ記載製品での品切れをなくし営業機会を確実に獲っていく等のことが語られていましたね。不可逆の流れではあるはずなのでもう少しお付き合いを続けていくより他なさそうです。

その他ではオカダアイヨンは可もなく不可もなく、そんな毎四半期ごとに良い材料が出るものでもないので。優待ポートフォリオの共立メンテナンスとDDグループは経済活動再開と値上げ恩恵、原材料価格ピークアウトで大きく株価は伸びました。決算ではないですが月末にかけてシンメンテの株価が大きく上昇しています。

売買では規模や割安感、単純な好みからニップンを購入。保有はBtoB銘柄が主でBtoC銘柄を持っていなかったというのもあります。今回の決算期は値上げをきちんと追っていたり原材料や物流の状況を見ていれば簡単だったようですが、自分はそこまで見れていなかったので100%後追いです。生鮮食品の価格は大きく変動するものの比較的価格が安定している冷食は家計の防御策として活躍の機会が続くと思うのでここからでも間に合うとの想定です。

ニップン以外では三菱UFJ、太平製作所、マクニカを購入。三菱UFJはインフレと指数連動対策。太平製作所は受注が大きく伸びていたので。マクニカは半導体の株価的調整は済んだようなので。いずれの銘柄も信用口座で保有しているため保有銘柄一覧には記載していません。

決算をある程度しっかり見たのは久しぶりであったため、現物もフルポジションでそこに決算通過後に信用で追加していくと含み損ですぐ首が回らなくなってしまうのを思い出しました。一時期ちょっと首が回っていませんでした。これを回避するため現物は削減して余裕を持たせていく方針です。長期現物、信用スイングという形でしょうか。

指数や周りの投資家に対し劣後しているのは事実ではありますが、ここで焦ったところでパフォーマンスが急回復することはないので、焦らずでもやることはしっかりとやっていくより他ありません。今年も早いもので残り4か月。プラスで終えられるのが最低目標で、次はやはり指数並み、できれば指数をアウトパフォームしたいとは思っていますが果たして。頑張ってまいります。

株式投資は、値動きのある資産(外国株式は為替変動リスクもあります。)に対し投資をするため、資産残高 は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

@takeumasisin